

地域連携

地域包括ケア論

《履修上の留意事項》実際に当別町内にてフィールド演習を行いますのでご注意ください。

《担当者名》 朝日まどか asahi-m@hoku-iryu-u.ac.jp、鈴木英樹、長谷川純子、只石朋仁、若松千裕

【概要】

当別町内の地域ケア関係機関との協働のもと、町民が住みなれた地域で安心して暮らせるよう地域包括ケアの理解を深めるとともに、当別町での具体的取り組みについても理解を深める。また、専任教員の指導のもと、各グループに分かれて、町内の関連事業に参画し、地域包括ケアのイメージを具体化させるとともに、地域包括ケアに対するセラピストの参画意義についての考察を行う。

【学修目標】

地域包括ケアシステムを理解するため、その成立背景や現状を学び、そのシステムにおけるセラピストの役割や具体的な実践方法を提示することができる。

1. 地域包括ケアシステム誕生の社会的背景について列記することができる。
2. 地域包括ケアシステムの概要並びにシステムにおいてセラピストが求められる役割について列記することができる。
3. 当別町における取組について列記することができる。
4. 実際の事業に試行的に携わりながら、現状の課題について列記することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	・講義目的や進め方についての説明 ・フィールド演習についての概要説明 ・地域包括ケアシステムの理解	朝日まどか
2	地域包括ケアシステムの理解	・地域包括システムにおいてセラピストに求められているもの	鈴木英樹
3	当別町における地域包括ケアシステムの実態	当別町保健師による講義 ・当別町における地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み	鈴木英樹 朝日まどか 置田恵美
4	介護予防フェア（フィールドワークに）に向けた説明	・フィールド演習の概要説明 ・フィールド演習のグループ分け	担当者全員
5 ） 10	介護予防フェアに向けたグループワーク	・介護予防フェアにおける内容の企画立案 ・住民や関係者への周知方法の検討 ・その他	担当者全員
11 ） 15	介護予防フェアの実施	・当別町内にて介護予防フェアの実施	担当者全員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

講義演習への取り組み態度50%、演習での取り組みレポート50%

【教科書】

特になし。資料を配布する。

【学修の準備】

障がい者や高齢者が地域で生活するために必要な様々な要因について、事前に学習すること。（予習80分）
また、講義終了後は、配布資料や講義内容に基づき復習すること。（復習80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

【実務経験】

鈴木英樹、長谷川純子、只石朋仁（理学療法士）
朝日まどか（作業療法士）
若松千裕（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

地域在住高齢者や障がい者の方々への支援経験を踏まえ、地域の課題解決や住民の健康に関する意識啓発の具体的方法について講義や演習を通じて学生に講義し、地域実践につなげていく。